

お母さんの耳が なおるといいな

小 二

わたしが一年生のとき、お

母さんが体ちょうをくずして

入いんしたことがあります。

何日かで、たいいんできたけ

れど、そのときからお母さん

の右の耳が聞こえなくなつて

しまいました。元気になつた

らなおるのかな、と思つてい

たけれど、今も、お母さんの

右の耳は聞こえないままです。

お母さんは、とつぜん右や

後ろから話しかけられても聞

こえません。わたしが妹と同

時に話しかけたときは、

「一人ずつ話してね。」

と言われます。

お店では、店いんさんの声

が聞こえないときもあります。

そんなときは、わたしが聞い

て教えています。お母さんの

かた耳が聞こえなくなつてし

まったことを知つたときは、

ふあんになつたけれど、今は

少しずつ、お母さんのこまり

ごとがわかるようになってき

ました。それから、お母さんが聞きとりやすいようにゆつくりていねいに話すようになりました。

お母さんは、わたしにしんばいさせないように、

「こっちの耳が聞こえるから

だいじょうぶだよ。」

と言ってくれます。わたしは、お母さんの元気なすがたと、そのことばにあんしんしてたくさんあまえています。でもわたしは、できれば、お母さんの耳が元通りになってほしいと思っと思っています。

「耳が聞こえないことをなん

ちようというんだよ。」

とお母さんから聞きました。

目がわるい人はめがねをかけているけれど、お母さんは耳に何もつけていないし、見た目は前とかわりません。わたしが気づいていないだけで、まわりにもなんちようの人はいるのかもしれないと考えるようになりました。

わたしの家ぞくは、前より、たすけ合いの気もちが強くなっています。お母さんがしんばいしないように、わたした

ち家ぞくは、いつも通り、え
がおいっぱいにすごしていま
す。

みんながえがおです。すた
めには、やさしい気もちとこ
まっている人が自分のまわり
にいるかもしれないと考える
気もちが大切だと思います。
お母さんの耳がなおっても、
なおらなくても、わたしはお
母さんのことが大好きです。
知らない人をたすけることは
とてもゆう気があるので、ま
ずは家ぞくや友だちにやさし
いことばがけをしたり、行ど

うをとったりしたいです。